

# 「死ぬ前に家の整理をしたい」

あそか特養4階

田村

前原

近澤

鈴木

# ご本人さまの願い

「自宅にある金庫の鍵の在処を、  
92歳の妹さんに伝えておきたい。  
ずっと帰りがかった生野区の自宅を、  
死ぬ前に整理したい…」



(お祭りにて豆絞りのハチマキ)

# 入居者さま紹介①

## 柏原ひさゑ様 (102歳)

- ・若くしてお父さんを亡くし、女学校卒業から定年までの36年間を大阪市交通局で勤め上げ、6人兄弟の長女として、生涯独身で父親代わりに家族を養い、また、お母さんを90歳まで介護していた。
- ・高齢で姉妹にも手を借りられない状況になり住宅改修して住みたいと思っていた生野区の自宅を離れ、姪御さんのいる伊丹市へ。
- ・令和4年9月に、100歳であそか苑にご入居。

## 入居者さま紹介②

- ・ 95歳で閉塞性動脈硬化症のため右膝から下を切断
- ・ 車椅子は、片手片足で自操
- ・ トイレは、ズボンの上げ下げができ、夜間のオムツも朝にはご自身でリハビリパンツに交換していた。

**「自分のことは自分でする、自分でできる」**という気持ちが強く、**「気持ちは60歳や」**が口癖。

- ・ 100歳を超えてもご自分の気持ちをハッキリ伝えることのできる方。

# 自宅へ帰還①

2023年9月8日、往復2時間かかる生野区の自宅へ。



道すがら、ソワソワと周りを見渡す柏原さま。姪御さんが外の様子を説明すると、笑顔が見られました。



自宅につくと「下の棚に書いたもんがある」など指示され、姪御さんが自宅内を搜索。

## 自宅へ帰還②



残念ながら探し当てることはできなかった  
ようですが、向かいのお寺の住職さんや  
馴染みのご近所さんが

「柏原さんが帰ってきているんじゃない?!」  
と出てきてくださり、  
みなさん手をとって歓談され、  
一緒に記念写真。

# 願いが実現

帰宅途中からお疲れが出はじめましたが、  
帰苑後は、スッキリした表情をなさっていました。  
それから3日後、柏原さまはご逝去なさいました。



(冒頭の写真で作ってくださった、メッセージコーヒー)

毎日面会に来られていたご家族様より、

「無理やと思っていたけれど、  
こんなこと実現していただけてよかった」

「ずっと人に頼ることなく生活してきたので、  
ようやく甘えてもらえてよかった」

とおっしゃっていただきました。

# あそか特養での取り組み

入居者さまが亡くなった後に、  
もっとこうしてあげたかった、  
こんなことができていたらどうだったろうと、  
一緒にケアをしてきた職員同士で話し合い、  
気づきを得て次のケアに生かしていく

「デスカンファレンス」への取り組みを2023年10月頃から強化し、  
意欲的にすすめています。





さいごに

コロナ禍の中でも叶えられることはあると思います。  
守らなくてはならない規制はあるかもしれないですが、  
「絶対帰らせてあげたいんや！」っていう熱い思いがあれば、  
そんななかでも、できることは増えていくと思います  
なによりも、**ご本人の気持ちが一番大事**です！